

3年生のみなさんへ

第3学年主任 丹羽朋子

3年生の本格的な再スタートの日を迎えて、削り取られてしまった長い長い時間を取り戻す努力を、学年挙げてやっていかなければならないという覚悟を新たにしています。新型コロナウイルスの出現によって、これまで「あたりまえ」だった私たちの社会は大きく変化しました。グローバル化した今日の世界では、恐ろしいスピードで広大な範囲に感染が広がりいまだ収束していません。私たちは今、世界の転換点に立たされているのかもしれませんが。

5月22日現在で、新型コロナウイルスによる世界の死者は32.9万人だそうです。「ロシアンルーレットのようだ」と喩えた方もいましたが、誰に死をもたらすかわからない未知のウイルスは本当に怖い。恐怖のあまりに、感染者やその周囲の人を差別したり誹謗中傷したりということが多く起こったことは悲しい現実でした。また、一方では一部の若者たちが「自分たちは感染しても大したことはないだろう」と安易に考え自分勝手な行動をとっている様子も報道されました。こういうことは、ほとんど「無知」から起こります。みなさんは、学校でしっかりと学び、「正しく恐れる」という姿勢をもってください。学校も社会の一部ですから、社会と同様に「新しい生活様式」での学校生活のあり方をみんなで作っていかねばなりません。

学校というのは本来「密」だらけです。「密」にこそ、学校生活の楽しさがたくさんあったと思います。ペアワークや班学習で話し合い学び合う授業。みんなで机をくっつけて和気あいあいと食べる昼食。2年間の集大成として部員一丸となって臨む部活動の大会。そして、3年生となったみなさんが中心となって学校全体を一つにする大運動会…。「あたりまえ」にできると思っていました。なくなるなんて夢にも思いませんでした。一年生の時から、みなさんが3年生になって活躍する姿を想像して、とても楽しみにしていました。見たかった。本当に残念でなりません。みなさんがどれだけ楽しみにしていたか、どれだけそれらを通して成長するはずだったか、痛いほどわかります。しかし、何事も「いのちあってこそ」なのです。「いのち」を守るために、大切なものを諦めざるをえないのです。このことから「密を避ける」行動を取るこの意味と重みを正しく理解し、感染しないように注意して生活しましょう。ただ、どんなに注意しても感染する可能性は誰にでもあります。自分が知らずに感染していて人にうつしてしまうかもしれません。他人事ではなく自分事ととらえて、みんなの人権を大切にすることも忘れないでください。

新型コロナウイルスで、多くの「あたりまえ」を失ったことで、それらがどんなに幸せなものだったか気づくことができました。また、今まで気づかなかったけれどずっとそこにあったもののありがたさにも気づくことができました。3年生のみなさん、失ったものを嘆くのではなく、今あるものの価値を見出して、工夫していこう。辛くても耐え忍んで地道な努力を積み重ねよう。海や山で遭難するなどの危機に際した時、不幸にも亡くなってしまう方の多くは、孤独感や迫りくる死への恐怖、食糧や水が少ないことへの絶望で命を落とされるのだそうです。生き残る人は、コップに半分残っている水を「半分しかない」ではなく「半分もある」ととらえて、どうしたら死なずに済むかの工夫をし続ける人だといいます。物事を明るく転じてとらえ、プラスの言葉を使っていくと、考え方も行動も肯定的になり好循環が生まれます。「かわいそう」は禁止ワードとしましょう。

令和2年度、予測困難な中でも、私たちは元気に力強く前に進んでいかなければなりません。部活動や大運動会ができなくなったけれど、そこでみなさんが1、2年生に見せるはずだった「先輩としての姿」は、この状況の中で歯を食いしばって進路実現に向けて頑張る背中を示してほしい。学校に通えることや友だちと一緒に学べることの幸せが身に染みてわかった今だからこそ、学年一丸となって頑張っていけると確信しています。「みんなで頑張る」拠点である学校だからこそ、「一人ひとりが頑張る」ことができるのです。笑顔の卒業式めざして、一緒に走っていきましょう。